



<報道関係各位>

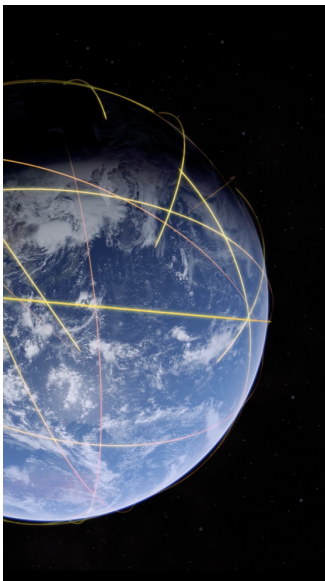
2021年12月吉日
株式会社 QPS 研究所

QPS 研究所はシリーズ B ファーストクローズとして

総額 38.5 億円の資金調達を実施

～衛星コンステレーションによる準リアルタイム地上観測データサービスは
いよいよ事業構築のフェーズへ～

世界トップレベルの小型 SAR(合成開口レーダー)衛星の開発・運用を行う株式会社 QPS 研究所(本社:福岡市中央区、代表取締役社長 CEO:大西俊輔、以下 QPS 研究所)は、この度、シリーズ B 資金調達のファーストクローズにおいて、スカパーJ S A T 株式会社(本社:東京都港区、代表取締役執行役員社長:米倉 英一)をリードインベスターとして、スパークス・グループ株式会社を運営者とする未来創生ファンド、日本工営株式会社、リアルテックファンド、三井住友海上キャピタル株式会社、株式会社 FFG ベンチャービジネスパートナーズ、三菱 UFJ キャピタル株式会社、SMBC ベンチャーキャピタル株式会社の総勢 8 社を引受先とする総額 38.5 億円の資金調達を実施いたしました。また、これまでに調達した資金調達は累計総額で約 72 億円となりました。



QPS 研究所は自社開発した小型衛星用の収納式大型軽量アンテナにより、従来の SAR(合成開口レーダー)衛星の 20 分の 1 の質量、100 分の 1 のコストで 100 kg 級高精細小型 SAR 衛星の開発に成功しました。現在は 2025 年以降を目標に 36 機の小型 SAR 衛星を打ち上げてコンステレーションを構築し、約 10 分ごとの準リアルタイム地上観測データサービスの提供を目指しています。このプロジェクトの実現に向け、2017 年 10 月ならびに 2018 年 2 月のシリーズ A 調達にて総額 24.5 億円の資金調達を行い、2020 年 11 月に総額 8.65 億円の追加資金調達を実施致しました。そして、当初のプラン通りに衛星「イザナギ」「イザナミ」の 2 機の開発、製造、打ち上げへと取り組んだ結果、2021 年 5 月には「イザナミ」による 70cm 分解能という民間の小型 SAR 衛星として日本で最高精細の画像取得に成功し、衛星データビジネスの構築にむけての活動を本格化させました。この度、シリーズ B で調達した資金は 2022 年打ち上げ予定の衛星 3 号機～6 号機の開発・運用の資金として使用する予定で、弊社が目指す小型 SAR 衛星 36 機のコンステレーションの実現に向け、着実に取り組んでまいります。

<代表取締役社長 CEO 大西俊輔 コメント>

「九州に宇宙産業を根付かせることを目的に創業された弊社は地場の 20 社以上のパートナー企業と一緒に衛星開発を行なっています。シリーズ A の資金調達から約 4 年で、私たちの小型 SAR 衛星開発の技術を宇宙実証することができ、衛星データビジネスに向けて本格的に動き始めることができました。このプロジェクトに挑戦する機会を与えて下さり、支えてくださる株主の皆様、そして応援くださる多くの方々に心より感謝申し上げます。今回のシリーズ B では、宇宙における豊富な経験を有するスカパーJ S A T 様がリードインベスターとなり、資金だけでなく事業面でも業務提携を締結し、いよいよ事業構築のフェーズに入ります。災害対策をはじめ、効率的な経済活動のためにも地表の準リアルタイム観測データの必要性は年々増えています。これを機に SAR 衛星のコンステレーション構築に向けて、より一層スピード感を持って進め、事業展開してまいります。」

プレス関係の方のお問い合わせ先
株式会社QPS研究所 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-15-35 レンゴー福岡天神ビル 5階
担当名:有吉 Email: y.ariyoshi@i-qps.com